

品川区子ども読書推進計画に対するご意見と区の考え方

	ご意見の要旨	区の考え方
1	自分の学生時代を思い返してみると、推察の中にあつた本を読み終えた時の達成感は自信になるというのは納得できる。自信をつけるという意味でテレビなどでも特集されていた読書通帳などを取り入れてると、目に見える成果となってよい。	読書通帳の導入に向けては、記帳方法を検討する必要がありますが、今後他自治体図書館から情報を収集するなどして検討してまいります。
2	図書館にて1歳のお子さんと普通の声で会話をしていただけで2度も注意をされてしまう。このような雰囲気のレストランでは、乳幼児を連れて本を見に行く気持ちが悪くなってしまふ。読書活動以前の問題。	ご意見として承ります。
3	小学生にとって、本に接する機会が一番多いのは、学校図書館だと思う。学校図書館の蔵書の充実、読書環境の整備、本を子どもたちへ橋渡しする図書館司書が欠かせない。子どもたちが学校にいる間の図書館司書の区内全校の配置を望む。	<p>全校に配置している学校図書館運営支援スタッフと、学校ボランティアや図書委員などが、担当とともに運営の充実にあたっています。</p> <p>さまざまな人材が学校図書館運営に関わることも、地域に開かれた学校として望ましい形でもあります。</p> <p>学校図書館の蔵書状況を把握し、資料の充実に努めるとともに、学校図書館運営支援スタッフ配置の時間の充実等含めより良い学校図書館運営の形を学校と連携して、検討してまいります。</p>
4	子どもは地理的に遠いと読書習慣をつけるのも難しい。小山台地区に移転することで、児童書だけでも自由返却を手にとって次に借りて行けるようにしてほしい。	現在、図書館の小山台地区への移転の予定はございません。区内には図書館11館と大崎駅西口図書取次施設で図書の閲覧貸出ができます。

5	<p>区内にたくさん図書館があり、親子の憩いの場となっている。今後、さらに利用を増やしたい。品川区の図書館では、ネットで本選び予約することはできるのか。</p>	<p>品川区立図書館では、インターネットか図書館内利用者用端末から図書館所蔵の本の予約ができます。本の書誌には内容や、表紙が掲載されているものもあります。</p>
6	<p>子どもの足でも行ける距離にさらに増えると嬉しく思う。</p>	<p>区内には図書館11館と大崎駅西口図書取次施設で図書の閲覧貸出ができます。今後も資料の充実と居心地の良さの向上に努めてまいります。</p>
7	<p>小学校低学年までは親の働きかけが有効なので、この時期までに本好きにさせたい。 学習漫画は興味付けに役にたつ。人気のあるキャラクター×教科がミックスしたものは子どもは飛び付く。幼児から読むと小学生になっても続けると感じる。予約が多く順番が回ってこないのので、予約数が多い漫画は増えればよいと思う。</p>	<p>漫画も含め、全体の選書基準の中でより興味深い蔵書構成に向けて努力してまいります。</p>
8	<p>年数回、区立図書館の到着情報が学校から配布されれば、ふだん区立図書館を利用していない子どもや親でも、気づきがあり、資料を借りて家で読むなど、利用する機会になると思う。</p>	<p>各学校図書館で、ブックリスト等の工夫に取り組んでいるところですが、区立図書館も所蔵情報について、学校への情報提供を行ってまいります。</p>

9	<p>家庭での読書活動が低下する中で、学校図書館の役割は大きいとは書かれているが、学校図書館運営支援スタッフの配置、ボランティアといった外部の方に全て任せていいのか？内部スタッフとして図書館司書が常時図書館にいたることが、子どもたちが安心して図書館利用ができ、本への興味関心を育む。</p>	<p>学校図書館は学校内の重要施設として、教職員、学校図書館運営支援スタッフ、学校ボランティア、児童・生徒の協力で運営されています。学校図書館運営支援スタッフも、司書資格を持つスタッフが多く、研修や実務研修で専門知識を積み学校の一員として図書館を支援しています。</p> <p>今後も、子どもたちの読書を支えるために公共図書館からも支援を充実させてまいります。</p>
10	<p>個々の困難さに合わせた読書手段の紹介、提供することで読書を楽しめるように取り組むとあるが、スローガンだけで、具体的な手立ては何もなく効果はないと思う。</p>	<p>近年著作権法が改正され、また昨年「読書バリアフリー法」が国会で成立したことで、読むことに困難のある方の様々なニーズに合わせた資料をご提供できる環境が整いつつあります。品川図書館にご相談いただければ、その困難さの違いに沿う形で「さわる絵本」「LLブック」「マルチメディアデジ―図書」などといった様々な資料をご提供できるよう準備を行います。また、区内公立学校、都立特別支援学校そして区内各種施設などへの情報提供を通じ、品川図書館が読書活動のプラットフォームとして障害の有無に関わらず区民の皆様の読書の支援を行っていきます。</p>

11	<p>施策2についての意見</p> <p>区内の学校図書館には現在、学校図書館運営スタッフ(学校司書)が週 2.5 日(週 15 時間)民間企業から派遣で配置されている。品川区では近年児童数が増加し、特に低学年の学級増がみられる。週 15 時間の勤務では、中休み、昼休みの対応、図書館に来る学級への対応さえ十分出来きれない時間数である。スタッフのいない日には鍵の掛かっている学校すらある。学校司書が毎日いる図書館にしてほしい。</p>	<p>学校図書館運営支援スタッフ、学校ボランティア、図書委員などが、担当とともに運営の充実にあたっています。</p> <p>さまざまな人材が学校図書館運営に関わることも、地域に開かれた学校として望ましい形でもあります。学校図書館運営支援スタッフ配置の時間の充実等含めより良い学校図書館運営の形を学校と連携して、検討してまいります。</p>
12	<p>第5章として又は、計画推進の体制、という項目を設け役割分担を明確にして欲しい。</p>	<p>各部署、各地域、各関係者が、本計画を基に考え推進していく計画提案となっていますが、ご意見を踏まえ「第一章」の中へ示します。</p>

13	<p>「読むことに困難さのある子ども」を一つの柱として取り組もうとする姿勢は歓迎する。「困難さの現状をつかむ手立て」を知る研修が、学校や図書館職員にまず必要、調査も必要である。それは、どこが推進するか。</p>	<p>品川図書館では約 4000 タイトルの障害者用資料を用意しているとともに、国内の図書館、電子図書館である「サピエ」と提携しており、様々な資料を提供できる準備を整えております。区内公立学校、都立特別支援学校そして区内各種施設などへの情報提供を通じ、品川図書館が読書活動のプラットフォームとして障害の有無に関わらず区民の皆様の読書の支援を行っていきます。</p> <p>「読むことに困難さのある子ども」を含め、特別支援に関する研修は、教諭の様々な職層研修において実施しているところです。調査については行っておりませんが、各研修の中で、担任等が児童・生徒の実態把握や支援についての具体的な方法等を理解できるように進めています。</p>
----	---	---

14	<p>小・中学校、義務教育学校の学校図書館 について</p> <p>情報センターとしての学校図書館の働きを活発にさせる内容で、今回重要な点だと考える。実現のためには、先生たちへの学校図書館(メディアセンター)の活用研修を重点的にすすめ、効果をあげている地域があり、研修体制の強化に触れる必要がある。「インターネットを含む多様な資料の使い方を知り、図書館を使った調べ学習の方法」を児童生徒が身に付けるには、教員と学校司書(スタッフ)研修が重要である。それを支援する体制、現職又は、司書教諭経験のある教諭と教育委員会指導主事が入った支援体制がどうしても必要と考える。</p>	<p>「図書担当教諭研修会」を毎年行っています。その研修の中で、推進計画の趣旨説明など教員向けの研修を行っていきます。</p>
15	<p>図書通帳があると、本を読まない子供でも読むことのモチベーションが上がって、喜んで図書館に行くのではと思うので、「図書通帳」を 品川区でも是非取り入れてほしい。</p>	<p>読書通帳の導入に向けては、記帳方法を検討する必要がありますが、今後他自治体図書館から情報を収集するなどして検討してまいります。</p>
16	<p>品川図書館でも英語多読コーナーを設置し、これからの時代を担う子供たちの英語力、自由な情報収集能力を養ってほしい。</p>	<p>品川図書館では、令和元年10月より、「ユニバーサル資料コーナー」を設置いたしました。そちらに現在英語と日本語の多読資料をご用意しており、今後も資料の充実を図っていきます。また、児童コーナーでは洋書の絵本を所蔵しております。</p>

17	<p>P7 乳幼児啓発事業</p> <p>【提案】平成 28 年より図書館での引き換えになっているが、引き換えに行かない人もいるので健診時に絵本を渡す方法に戻してほしい。</p>	<p>平成 28 年より、事業が図書館主体になっていますが、図書館に一度来てほしいという観点から、図書館での引き換えという形をとっているところです。</p>
18	<p>P25 自然や社会等への関心を高める図鑑等の活用</p> <p>【意見】「日々の読み聞かせの中で～」とありますが、具体的には誰がやるのでしょうか？</p> <p>現実的には、保育士や幼稚園教諭ではないかと思うが、そこを明記してほしい。</p>	<p>日々読み聞かせは、保育士、幼稚園教諭はもとより、まわりの身近な大人が読み聞かせを行うことも計画の中では想定しております。</p> <p>また、図書館においては、それらの資料の充実に努めてまいります。</p>
19	<p>P26 施策 2(小学生段階)</p> <p>■取り組み①様々な本に出合う機会の提供</p> <p>読書興味を高めるような本を、子どもに応じて紹介できる人的体制についても検討していきます。</p> <p>【意見】現在、品川区立学校には外部委託による学校図書館運営支援スタッフが配属されているが、週に 2.5 日しか配置されていない。学校の授業がある日には必ずいてほしい。</p> <p>また、外部委託ではなく直接雇用の学校司書に学校の先生が直接依頼できる体制を整えてほしい。</p>	<p>各学校では、学校と学校図書館運営支援スタッフが毎月作業計画会議を開き図書館運営について、協議しています。また、日々の学校と学校図書館運営支援スタッフの調整を行えるよう連絡体制を整えています。</p>

20	<p>打ち間違いと思える記述</p> <p>P20 未就学児 本文 2 行目 「絵本”を”読み聞かせをしてもらう中で ～」</p> <p>小学生段階 本文 4 行目 「読む”ように”なかで」</p> <p>P21 大学生世代 本文 5 行目 「担い手”と”増やすことを」</p> <p>P26 注釈 21 「家庭でも”場所”でもない」</p>	修正いたします。
21	<p>P7 ブックファースト:「4か月児健康診 査の際に受診者に引換券を配布し、区 立図書館でオリジナル手提げ袋に入っ た絵本と啓発リーフレットに引き換えて います。」が、引き替え時に、ただ渡す だけではなく、できればその場で、引き 替えの本で読み聞かせをして、子ども とのコミュニケーションの取り方や、図 書館利用の仕方など、来館のチャンス を生かしてして保護者の意識啓発をし てください。未就学児の読書は保護者 の役割がとても大切です。また、これ は素案の P20 に入らないか。</p>	<p>現在、未就学児の保護者向けの絵本 の講座を、児童センターと共催で行っ ております。また、よんでよんで事業と して保護者向けの講座を行い、充実を 図っていきます。</p>

22	<p>小・中学生では、子どもにとって学校図書館が重要な読書環境であることが分かる。</p> <p>P26①様々な本に出会う機会の提供 読書興味を高めるような本を、子どもに応じて紹介できる人的体制についても検討していきます。</p> <p>学校図書館の環境はずいぶん整ってきていると思うが、そこに居る本を手渡しする人の育成はどのように行うのか。</p> <p>また、これらを行うには現状の週に 2.5 日・外部事業者に委託している学校図書館運営支援スタッフでは無理ではないか？子どもの情報が分かる直接雇用の司書が毎日居る環境が必要であると思う。</p>	<p>学校図書館運営支援スタッフ、学校ボランティア、図書委員などが、担当とともに運営の充実にあたっています。さまざまな人材が学校図書館運営に関わることも、地域に開かれた学校として望ましい形でもあります。</p> <p>学校図書館運営支援スタッフ配置の時間の充実等含めより良い学校図書館運営の形を学校と連携して、検討してまいります。</p>
23	<p>毎日司書がいる学校図書館であれば、不登校の子どもの居場所や、視覚障害のある子どもの対応にも携われるのではないか。</p>	<p>視覚障害などのある児童については、区内公立学校、都立特別支援学校そして区内各種施設などへの情報提供を通じ、品川図書館が読書活動のプラットフォームとして障害の有無に関わらず区民の皆様の読書の支援を行っていきます。</p> <p>また、学校図書館は学習の場として運用しています。居場所としての可能性については、今後の研究課題と考えています。</p>
24	<p>素案で、一番気になったところは、誰がどこでどのようにこの活動を推進していくのかが明記されていないことです。もっと具体的に示していただけるとありがたい。</p>	<p>各部署、各地域、各関係者が、本計画を基に考え推進していく計画提案となっておりますが、ご意見を踏まえ「第一章」の中へ示します。</p>

25	<p>図書室が開いていることは読書だけの効果をもたらすものではないと思う。不登校児の寛ぎの場にもなり得る。実際、不登校の子は教室に入ることが出来ないとまず保健室登校を試みるが、保健室にも入ることが出来ない場合、図書室も居場所の一つになるはずなのに、図書室が開いていないのであれば結局行き場を失ってしまう。そういう観点からも是非学校の図書室をまず毎日開けてほしい。</p>	<p>学校図書館運営支援スタッフ、学校ボランティア、図書委員などが、担当とともに運営の充実にあたっています。さまざまな人材が学校図書館運営に関わることも、地域に開かれた学校として望ましい形でもあります。学校図書館運営支援スタッフ配置の時間の充実等含めより良い学校図書館運営の形を学校と連携して、検討してまいります。</p> <p>また、学校図書館は学習の場として運用しています。居場所としての可能性については、今後の研究課題と考えています。</p>
26	<p>本とインターネットをやや対立項のようにとらえていること</p> <p>調査内容では、本をよく読む子どもがインターネットでの調査にもすぐれている傾向があるという相関関係などについても触れられているが、テキストの質の問題と、デバイスあるいはインターフェイスの問題は、それぞれの組み合わせがありうるのではないかと思う。ただし、一般に「インターネットが読書の敵」であるかのように理解されがちな点からみれば、このぐらいのアプローチがわかりやすいのかもしれない。</p>	<p>本を読み、事典等を調べる過程で、子どもたちが考え、自ら知識を構築していくことは、読書能力の観点では望まれることと認識しています。中学生世代以上の子どもに対しては調べ学習や探求学習を通じて学ぶことのできるよう取り組みたいと考えています。</p>

27	<p>「本に書かれていること」が知識資源であるかのように見えること 執筆過程はそれぞれの記述で異なり、多様な記述と思考経験の積み重ねによることで、実感ができるような体験が必要ではないか。本へのアクセスにおける調べ学習ないし事典・辞典類への言及が、「書かれていること＝知識」のように解釈されていることに疑問をもった。</p>	<p>取組のなかで、考え方を取り入れていきながら、継続して研究課題としていきます。</p>
28	<p>読み聞かせと読書の関係について 幼いころに読み聞かせをしている家庭では、読書率が高いという分析があった。それ自体に異議はありませんが、バリアフリーに触れるのであれば、親が聾者であるような家庭への配慮もどこかで必要かと思う。</p>	<p>視覚障害などのある方に対しては、今後品川図書館で行っている障害者サービスを広く周知するとともに、読むことに困難のある方へは、品川区立図書館にて個別にご相談いただくことで、その方の状況や希望にあった読み聞かせに役立つ情報を提供いたします。</p>
29	<p>施策1の取り組み①について。児童センターでの本の充実(絵本の量のみならず質)や本を案内できる人材をどのようにしておこなうのか？区内図書館でのリーフレットだけでは不十分です。</p>	<p>図書館より、ブックリストの案内、職員等の読書相談や団体貸出の利用などで、支援をしていきます。また、児童センターとの共催事業など、利用者の方への読書活動の推進を図っていきます。</p>
30	<p>施策1の取り組み①乳児4ヶ月健診でのファーストブックが引換券になり、手渡されるだけの絵本になってしまい、検診時に実際に読み聞かせを体験することで赤ちゃんの反応や読み方などを知ることができ、大変重要だと思う。</p>	<p>現在、未就学児の保護者向けの絵本の講座を、児童センターと共催で行っております。また、よんでよんで事業として保護者向けの講座を行い、充実を図っていきます。</p>

31	<p>②「家読」の取り組みについてですが、どのような周知・体制をとるのうか？また、家庭が十分に取組めない場合の地域の体制とはどのようなものなのか？</p>	<p>「家読」については、まず、家庭に向けて、家読への周知・PRに努めてまいります。その上で、家庭・各部署・地域・ボランティア・NPO・民間専門事業者と協働し、推進してまいります。</p>
32	<p>本区の区立図書館、学校図書館は民間委託を基本とした管理運営がなされている。読書推進体制は非常に脆弱です。</p> <p>本区図書館の指定管理者には、学校図書館の運営についても業務を委託している。要するに、適切な読書推進計画を策定しても、その実現、推進を具体的に行政が担うことはできません。</p> <p>現在司書有資格の職員、図書館経験豊かな職員は極めて少ない実状にあり、本計画推進を具体的に担うことはできません。何よりも、図書館の理念の沿った職員体制確立を計画の中で挙げるべきだと思う。</p>	<p>本区の図書館運営には、区職員が中心となって、指定管理・窓口委託を取り入れて図書館業務専門知識を活用しつつ、官民の協力体制を築いて行っています。</p> <p>計画の推進においては、区の職員である図書館職員が、各関係機関部署と連携し、民間事業者とも協力しながら進めてまいります。</p> <p>家庭への啓発においても同様に、職員が中心で推進していくこととなります。職員の能力育成についても、区役所各所管同様、各種研修やOJTを複層的に行う中で人材育成に努めてまいります。</p>
33	<p>一冊でも良い、その子の「生きる力」となる本を手渡してあげたい。本を読まない理由が本当に心から楽しめる質の高い本を知らなかったからとならないようにしたい。環境の変化に対応する情報や知識を得るための本だけでなく、不変に「生きる力」を与える質の高い「文学」と、子ども達を出会わせてほしい。そのための計画を忘れないでください。</p>	<p>今回の計画では、知識だけでなく、文学も核として読書興味を養い、読書能力をつけることで、人生を豊かに生きる力を自分自身で身につけるための読書を推奨しています。ティーンズサービスの推進にあたりましては、情報選択の大切さなどに重点を置いています。絵本や文学の読書活動についても、前計画を引き継ぎながら、推進に努めてまいります。また、ご指摘いただいたブックリスト他の推奨本についてもより充実させていくよう努力してまいります。</p>

34	<p>どの学校も、授業以外でも開放し(施設せず)、生徒たちがいつでも本が読める環境にしてください。第4章施策2本に親しみ、知るための基礎を形成する ■取り組み ①様々な本に出会う機会の提供 子どもたちにとっての第三の場所となるような居場所としての機能に、期待します。あらゆる子どもが読書環境にアクセスできることが、登校しやすい環境をつくることに繋がる、と信じている。</p>	<p>学校図書館運営支援スタッフ、学校ボランティア、図書委員などが、担当とともに運営の充実にあたっています。さまざまな人材が学校図書館運営に関わることも、地域に開かれた学校として望ましい形でもあります。学校図書館運営支援スタッフ配置の時間の充実等含めより良い学校図書館運営の形を学校と連携して、検討してまいります。また、学校図書館は学習の場として運用しています。居場所としての可能性については、今後の研究課題と考えています。</p>
35	<p>品川区立の学校図書館に週5日図書館司書を配置することを盛り込んでください。</p>	<p>学校図書館運営支援スタッフ、学校ボランティア、図書委員などが、担当とともに運営の充実にあたっています。さまざまな人材が学校図書館運営に関わることも、地域に開かれた学校として望ましい形でもあります。学校図書館運営支援スタッフ配置の時間の充実等を含めより良い学校図書館運営の形を学校と連携して、検討してまいります。</p>